彩の国
埼玉県

令和２年11月発行　第18号

埼玉県マスコット
コバトン＆さいたまっち

埼玉県立 小児医療センターだより

●埼玉県立小児医療センター
〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel▷048-601-2200（代表）　Fax▷048-601-2201　E-mail▷n581811@pref.saitama.lg.jp
URL▷https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html

新看護部長あいさつ

看護部長　中田尚子（なかだ なおこ）

本年４月に看護部長を拝命いたしました中田尚子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。新採用職員の時に小児医療センターに配属され、途中、他の県立病院等へ異動していますが、３０年余りの看護師経験のほとんどが当センターでの経験です。新病院移転前には医療安全管理者として携わり、医療安全文化の醸成を目指して、チームSTEPPS（Team Strategies & Tools to Enhance Performance and Patient Safety）を導入し、多職種合同によるチームトレーニングを行ってきました。医療安全管理者としての経験は職員教育の重要性を再認識する機会となり、これからの看護師教育にも活用できるものと思っております。

今年度は今までに経験したことのないCOVID-19の感染拡大による混乱状態から始まりました。当センターも例外ではなく、今までの病院機能だけではなく、早急な対応・変化を求められました。新採用職員研修は集合研修から３密を避けるため、各部署でのOJT（On the Job Training）に切り替えました。今までとは異なる研修方法に戸惑いもありましたが、各部署でなにを、どのように、いつ教えてほしいかなどの指導内容等を再構築し、部署ごとの差異を最小限に留められるよう調整をし、OJTを実施してきました。OJTに切り替えたことで新採用職員・先輩看護師との関係性は密接になり、共に学び、成長する喜びを実感できているようです。また、当センターのCOVID-19への方針・対応に基づき、看護部一丸となってこども・ご家族・職員の安全を守るために、迅速に対応してきました。急激な変化は身体的・精神的ストレスが大きいですが、変化に対応することで新たな発見・気づきを得る良い機会にもなっています。

新病院へ移転し、まもなく丸４年を迎えます。移転後、当センターは様々なことに取り組んできました。隣接するさいたま赤十字病院との連携により総合周産期母子医療センターの開設、成人を対象とした心房中隔欠損カテーテル治療（AMPLATZER）、令和元年からは移植センターを開設し、生体肝移植を開始しました。

平成２５年に小児がん拠点病院としての指定を受け、治療はもとより長期フォローアップや緩和ケア、相談支援、昨年からはAYA世代と言われる青年期の方々を受け入れ、治療も始まっています。今年度から埼玉県立がんセンター等と連携し、がんゲノム連携病院としてがん細胞遺伝子解析が始まりました。また、CAR-T細胞療法（キムリア）実施施設にもなり、先進医療にも取り組んでいます。当センターは小児がん拠点病院の中でも特に多くのこどもたちに対応し、その役割は年々拡大しています。

これらの高度専門医療に看護師一人一人が安全で質の高い看護が提供できるよう、私たち看護部は当センターの理念「For the future, for the children こどもたちの未来は私たちの未来」から看護部の理念「こどもたちの未来のためにこどもたちの最善を目指した看護を提供します」を掲げています。こどもの権利を尊重し、そのこどもにとって最善の看護が提供できるようご家族とともに考え実践できる看護師を育成しています。こどもたちにどのようなケアが必要か、こどもたちの頑張る力を最大限に引き出すためには何が必要かを考え、看護を提供しています。こどもたちの頑張る力を引きだすために、私たちはオレム看護論を基盤とした看護を埼玉県立大学と連携し考案してきました。令和元年このオレム看護論を基盤とした看護は小児看護の中で「こどもセルフケア看護理論」として書籍で紹介されるまでになりました。

急激な変化に対応すること、時間をかけ構築していくこと、小児看護の発展にこれからも貢献していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

埼玉県立小児医療センターだより　第18号　ご案内

○　新看護部長あいさつ …… p. 1
○　新生児科の紹介 …… p. 2
○　脳神経外科の紹介 …… p. 3
○　放射線技術部の紹介 …… p. 4
○　看護部外来部門の紹介 …… p. 5
○　お知らせ
　　新型コロナウイルス感染症への対応について… p. 6
○　受診の案内・病院へのアクセス …… p. 6

＜診療部門紹介①＞

新生児科

「新生児医療の最後の砦」

科長　清水（しみず）　正樹（まさき）

埼玉県立小児医療センター総合周産期母子医療センターは県内２番目の総合周産期母子医療センターとして開設されました。多くの国内公的小児専門病院が産科施設のみを併設したのと異なり、全国初の試みとして「小児専門病院」と「産科施設を持つ総合病院」がお互いの機能を最大限に生かし、さいたま赤十字病院産婦人科との共同運用により「さいたま新都心」に埼玉県の周産期・新生児医療拠点を構築することができました。

処置の様子

2019年度の入院の内訳は、出生体重の小さい超低出生体重児（1000g未満）が41例、極低出生体重児（1000-1500g未満）が32例、低出生体重児（出生体重1500-2500g未満）が114例であり、在胎期間の早い超早産児は22-24W:12例、25-27W:27例でした。重症新生児仮死や遷延性肺高血圧症、胎便吸引症候群、重症新生児仮死などの出生体重2500ｇ以上の児は206例で総入院数の52.4%でした。超早産児のほとんどが母体搬送後にさいたま赤十字病院産科で出生しておりますが、地域医療機関で出生した超早産児、超低出生体重児や重症新生児仮死児などの高度新生児集中医療が必要な児は、当センター所有の新生児ドクターカーにより新生児搬送を行い、初期治療を行いながら新生児集中治療室（NICU）へ入院となります。さらに、小児の総合病院としての特性を生かし、未熟児・新生児のあらゆる疾患に対し関連各科との連携のもとに診断、治療にあたっており、特に未熟性に起因する疾患、重度呼吸循環障害、重度脳障害・低酸素性虚血性脳症、先天性代謝疾患などの重篤な疾患に対し、後遺症を残さないための高度新生児医療（低体温療法、一酸化窒素吸入療法、血液透析、ECMOなど）と同時に退院後の健全な発育、発達のために母子関係や地域の医療、保健、教育機関との連携にも力を注いでいます。

また、国内最大規模の遠隔医療ネットワークを用いた「埼玉県遠隔胎児診断支援システム」により本ネットワークに接続された地域産科医療機関で胎児診断を受けた際、胎児に何らかの異常所見・疑義が見つかった場合には本システムにより当センター総合周産期母子医療センターの診断支援が受けられます。これにより胎児診断された先天性心疾患、先天性外科系疾患の入院患児数も国内トップクラスとなり、埼玉県内の胎児診断・管理・治療の中枢となりつつあります。

さらに、昨年から米国認定音楽療法士を採用し、国内NICUで初めて活動を開始しました。現在新生児医療領域では「ハイリスク新生児の障害なき生存」から、「より豊かな成長発達」を促すために新生児集中治療に加えデベロップメンタルケアが普及しています。その一環として「音楽療法」を国内でいち早く導入でき、入院中のハイリスク新生児とご家族との絆の形成に尽力しています。

当センター開設前は埼玉県母体・新生児搬送コーディネーターにより年間50～80件の妊娠週数28週未満の他都県への母体搬送がありましたが、開設後は年間４～６例と激減しました。当センターの開設目的の一つである「東京都への母体・新生児搬送」は確実に減少し、埼玉県民への安心安全な妊娠、出産、育児のサポートができていると自負しております。埼玉県立小児医療センターが「埼玉県の小児医療の最後の砦」であると同時に、埼玉県立小児医療センター総合周産期母子医療センターは「埼玉県の周産期・新生児医療の最後の砦」となるべく設立されました。少子化が進む中、埼玉県における「安全安心な妊娠出産」「高度新生児医療」の提供を目指しています。

ＮＩＣＵの様子

ドクターカー

＜診療部門紹介②＞

脳神経外科

科長　栗原（くりはら）　淳（じゅん）

脳神経外科では、水頭症や二分脊椎、頭蓋骨縫合早期癒合症などの中枢神経系先天性疾患のほか、脳脊髄腫瘍や脳血管障害など小児中枢神経系疾患の外科的治療を行っています。当科では、開院以来、最先端の知見をもとに，水頭症に対する神経内視鏡手術や頭蓋骨縫合早期癒合症に対する頭蓋骨延長術など低侵襲手術を積極的に導入してきました。新病院移転後も最先端の磁場式追跡システムを搭載したニューロナビゲーションシステムを導入し、小児期の特殊な形態解剖や機能解剖を術前画像検査から詳細に検討し手術計画を行うことで安全で低侵襲な手術を行うよう心がけています。

水頭症に対しては年齢や原因、病態に応じた適切な手術術式、シャントシステムの選択、積極的に神経内視鏡手術の導入によりシャント手術の再手術率は開院当時の約80％から10％に減少しています。頭蓋縫合早期癒合症に対する手術も病態に応じて適切な手術術式を選択することで、計画外の再手術率は従来の約50％から５％に改善しています。脳腫瘍の患者数も新病院移転以降、増加傾向であり、従来から診療連携をしている血液腫瘍科や放射線科、病理診断科に加えて、臨床研究部とも協力をし、最先端の診療が行える体制が整ってきました。新病院移転時に導入したニューロナビゲーションシステムは脳腫瘍のみならず、水頭症や頭蓋骨縫合早期癒合症、先天性脳血管障害など形態異常が強い小児の先天性疾患に対する手術計画、術中支援に有用であり、新病院移転後の2017年からは手術件数が増加していますが、計画外の再手術数は減少しており、診療の質向上に寄与しています。

また当科では2008年から脳性麻痺による下肢痙縮に対して選択的脊髄後根神経切断術を行っておりますが、2020年10月からは重症の痙縮患者に対するITB（バクロフェン持続髄注）療法を開始しました。これにより整形外科で行っている筋解離手術、ボトックス注射とともに小児痙縮患者に対する多角的な診療が一施設で行える体制が整いました。なお小児痙縮治療に対する治療選択は整形外科、理学療法士とともに痙縮外来で適応を評価しています。

最後に、近年、赤ちゃんの頭の形の歪みに対する相談が急増していますが、この中には頭蓋骨縫合早期癒合症などの外科的治療介入を必要とする疾患と姿勢に伴う頭蓋変形（いわゆる寝癖）が含まれています。これらの病態の早期評価は頭蓋骨縫合早期癒合症の早期診断・治療、頭位性斜頭（いわゆる寝癖）に対する頭蓋形状矯正ヘルメットの適応判断に重要であると考えます。そこで、これらの病態の早期評価を目的に2020年10月から「赤ちゃんの頭の形外来」を開設しました。

当科では、今後も最新の診療を維持し小児神経外科診療のさらなる発展を目指していきたいと思っております。

特殊外来の案内

痙縮治療外来：第１金曜日 11 時～12 時
赤ちゃんの頭の形外来：第１金曜日 13 時～14 時

図１：埼玉県立小児医療センター脳神経外科手術件数

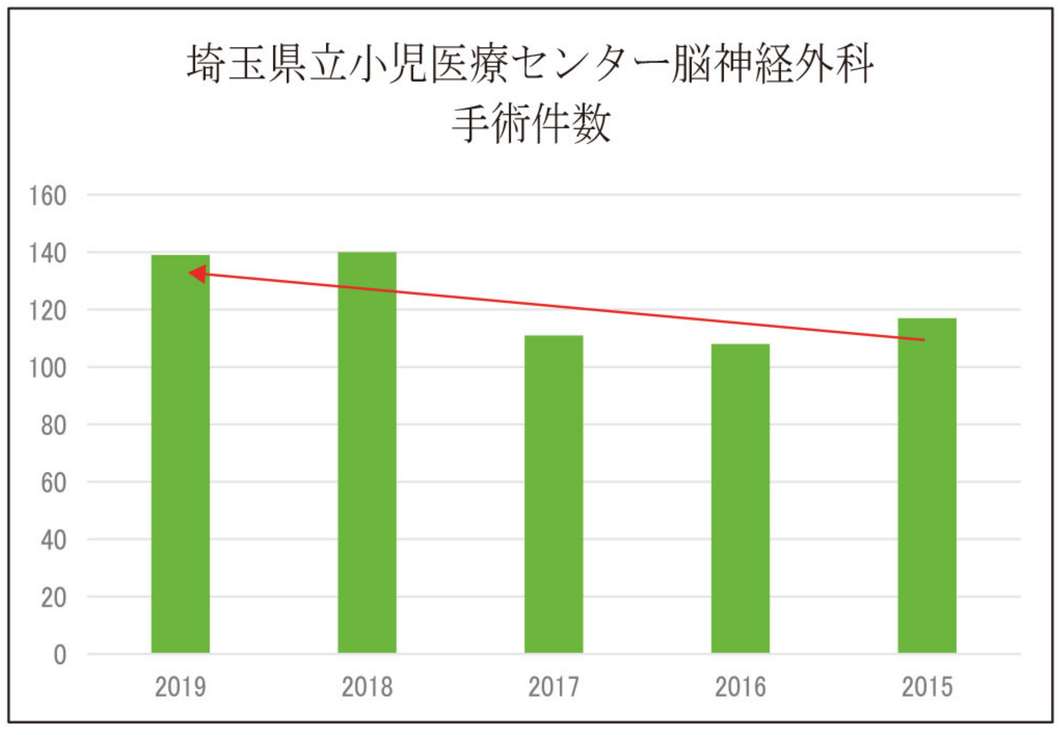
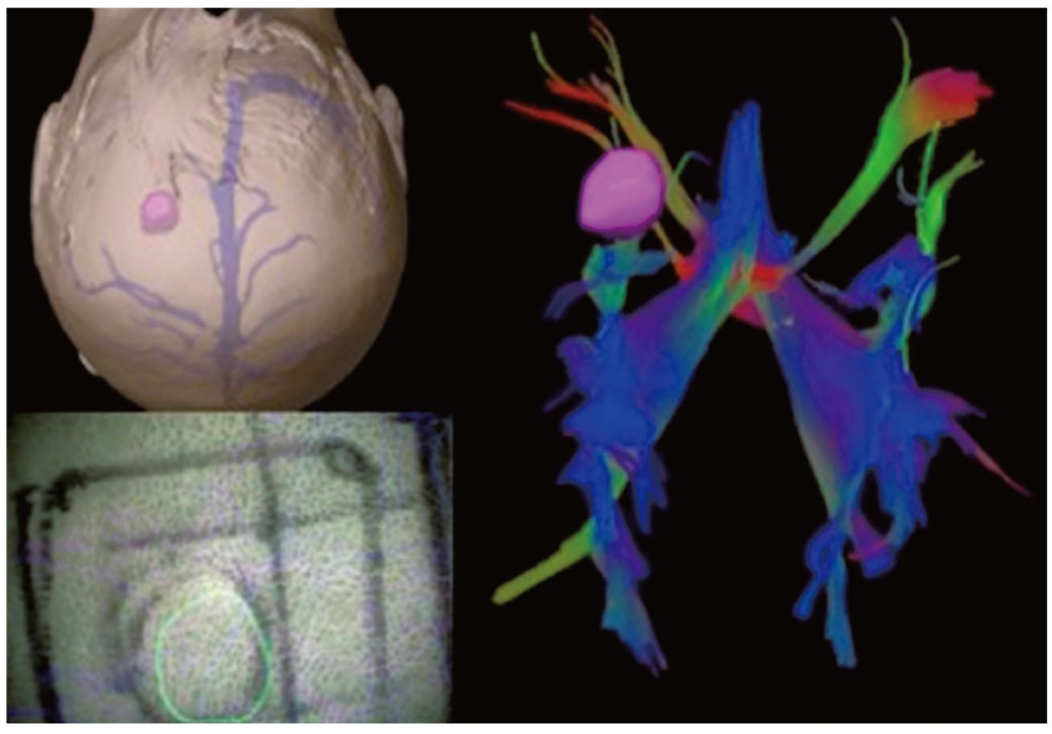


図２：ニューロナビゲーション



＜ 腫瘍と脳血管、神経束の描出、術中ナビゲーション ＞

＜コ・メディカル部門紹介＞

放射線技術部

副部長　松本（まつもと）　慎（まこと）

放射線技術部では、一般撮影、CT、MRI、血管撮影、核医学の画像診断検査と放射線治療の業務を24名の診療放射線技師で行っています。最新の装置を駆使し、より質の高い検査や治療、医療被ばくの適正化、またお子様の不安を少しでも和らげるように心がけ、安心安全な医療の提供に取り組んでいます。

＜ 放射線受付 ＞

【一般撮影部門】

単純Ｘ線撮影（胸部、腹部、骨）を中心に、透視造影、骨密度測定、病棟ポータブル撮影を行っています。検査は、患児のストレス軽減および心理的固定（視覚固定）を目的にDVDの映像を見ながら行い、検査にかかる時間も短くすることを心がけ、負担の少ない環境および撮影に努めています。当院に導入されているＸ線撮影システム（フラットパネルシステム）は、従来のものより大幅な線量低減、高画質化が可能となり、被ばく線量はさらに低く抑えられています。

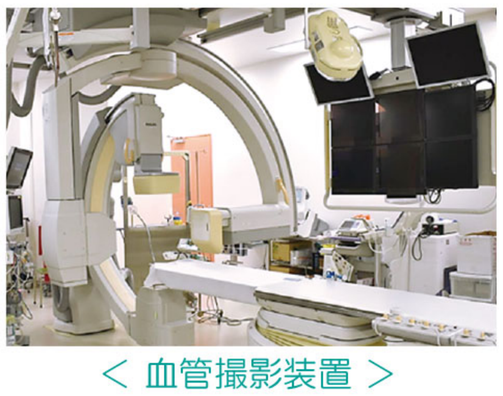
【ＣＴ撮影部門】

小児の特性に合わせた迅速かつ安全な検査に努め、息止めや静止が困難な患児や新生児の心臓等の高精細画像も撮影が可能です。ＣＴワークステーションでは３Ｄ画像の作成、冠動脈の解析も行っています。また病棟にも1台設置されており移動に支障を伴う患児に対応しています。被ばくについては、撮影目的に応じ診断に差し支えない画質が担保出来る範囲で線量の適正化を図っています。

＜Ｘ線立位撮影台＞

【MRI部門】

３Ｔと1.5Ｔの２台を擁し、頭部領域では脳の撮像に加え、脳血流を反映する撮像法（Arterial Spin Label）や脳神経を可視化する撮像（ファイバートラック）も行っています。また先天性心疾患の心臓MRI検査では、筋肉の動きや血液の流れ、心臓の容量を測定しています。近年では、さいたま赤十字病院と連携し先天性心疾患術後の経年的なフォローにも対応しています。また検査時間が長いため麻酔科による鎮静も行われています。


＜ 血管撮影装置 ＞

【血管撮影部門】

心疾患や脳疾患を対象にカテーテル検査及び治療を行っています。対象となる心疾患は心房（心室）中隔欠損症、肺動脈（大動脈）狭窄、ファロー四徴症などとなっています。近年、さいたま赤十字病院と連携して、成人の心房中隔欠損症のアンプラッツアー閉塞栓、出産直後のカテーテル治療などにも対応しています。また、脳疾患ではモヤモヤ病や脳動静脈奇形などを対象としています。昨年から開始した生体肝移植の術後血管内治療（IVR）にも対応しています。

【核医学部門】

SPECT装置及びSPECT-CT装置を用いて、脳血流、肝胆道、腎臓、腫瘍、骨、消化管等を検査しています。SPECT-CTでは深部吸収補正及び機能画像と解剖学的位置の融合画像を作成することで有用な情報を得ることが可能となっています。RI投与量は小児コンセンサスガイドラインに則り適正化を図り、また核医学専門技師を擁し安心安全な検査に努めています。

【放射線治療部門】

リニアック、治療計画用CT、治療計画装置を用いて、脳腫瘍、体幹部腫瘍、骨髄移植前のTBI（全身照射）照射を行っています。また画像誘導放射線治療（IGRT）を駆使し精度の高い治療に努めています。照射中のDVDの視聴、チャイルドライフスペシャリストとの連携など、安心して治療が受けられるように配慮しています。また医学物理士など専門の資格を持つスタッフを擁し安全な治療が行えるよう努めています。

＜ リニアック ＞

放射線技術部では全ての部門で、高度化する最新の放射線技術に対応できるよう研修、専門資格取得など自己研鑽に精進しています。これからもチーム医療の一端を担い小児医療の進歩に貢献して参りたいと思います。

＜看護部紹介＞

外来部門

外来師長　鈴木（すずき）　泰子（やすこ）

当外来は紹介予約制のシステムとなっており、一日平均500～700名のこどもたちが受診しています。１階から３階が外来エリアで、１階は主に検査エリア、２階から３階は診察・治療エリアとなっており、広いエリアと幅広い疾患に対応しています。診療科は、内科系11科、外科系12科、発達外来や予防接種外来等の保険発達部門４科の27科となっています。それ以外にも、アセスメント外来やＤＫ外来（ダウン症候群総合支援外来）等の集団外来や、夜尿外来・うさぎ外来（便秘外来）・移植後長期フォローアップ外来等の疾患・症状に特化した特殊外来があります。特殊外来の創傷ケア外来（ストーマー・褥瘡・スキンケア）・うさぎ外来（便秘外来）・CIC外来（間欠的事故導尿外来）・移植後長期フォローアップ外来では、医師と協働し皮膚・排泄ケア認定看護師、小児看護専門看護師、外来看護師が主体となり、こどもたちとご家族へのセルフケア等に関する相談・指導をさせていただいています。さらに２階には、計測室・採血室や外来治療を行う治療室６床とレーザー室があり、１階の検査エリアは、CT・MRI・RI（リニアック）・TV室や内視鏡室があります。また１階には、安全に検査が受けられるように、入眠した状態で検査を行うこどもたちに対応する入眠室があります。入眠室はこども医療の特徴的な部分で、検査中じっとしていることが難しいこどもたちが眠れる薬を使用すると共に、眠りやすい環境を整える場所となっています。

中央治療室は６床あります

カリヨンの樹に住むロボット８体が
みんなに見つけてもらえるのを待っているよ

クルクル・
カチャカチャ
動く壁の仕掛け

病院に入ると、こどもたちやご家族は緊張や不安な気持ちになると思います。そのような緊張や不安な気持ちが少しでも和むように、外来のいたるところに楽しい仕掛けがあります。壁には、病院のキャラクターでもある「カリヨンの樹に住む８体のロボット」と共に、動物や鳥そして草花が描かれ、床はクレヨンで描いたような温かみがある模様になっていて、外来の雰囲気を和らげています。

そして、待合室には大人とこどもの座面の高さを変え、こども側の背面にはパンダやキツネなどいろいろな動物が描かれた「親子椅子」があり、お母さんやお父さんがお子さんに絵本の読み聞かせをしている姿が見受けられます。また、２階にはプレイコーナーや多機能スペース、軽食が取れるエントランスホールがあり、３階にはこどもラウンジがあります。プレイコーナーやエントランスホールでは、時々ボランティアの方による紙芝居や楽器の演奏会が開催され、病気と共に暮らすこどもたちやご家族を応援しています。

待合エリアの親子椅子

靴を脱いで遊べるプレイコーナー

外来では、病気と向き合いながら生活するこどもたちや、医療的ケアが必要なこどもたちが増えているなか、こどもたちは日々いろいろな検査や処置を受けています。外来看護師は、その検査や処置がこどもたちにとってつらい体験として記憶に残らないような対応を心掛けています。例えば、２歳前後を目安に、お母さんやお父さんの協力の下でこどもの参加を促し、発達段階に合わせた処置の説明を行い、検査を行う上で選択できることはこども自身が選択できるよう支援しています。また、３～４歳前後から採血や点滴針の確保を行う際、お母さんやお父さんにお子さんを抱っこして頂き、医療用タブレット端末やお母さんやお父さんのスマートフォンの動画を見せるなど、処置中に遊びを交えることで疼痛や苦痛を緩和し、処置後にはこどもが「頑張った！」「できた！」という達成感がもてるように支援しています。自分で決めるまでには時間がかかることもありますが、自分が決めたことを最後までやり遂げることは、こどもたちの成長へ繋がると信じています。外来看護師は、こどもの頑張る力を引き出す看護を大切にし、日々こどもやご家族に対応していきたいと思っています。

お知らせ

新型コロナウイルス感染症への対応について

患者さんが安心して当センターを受診していただくためのお願いです。

〇院内では患者さん・付き添いの方全員にマスクの着用をお願いしています。
〇来院された方に、健康チェック（検温と健康チェック表の記入）をおこないます。
　来院者、同居者（来院していなくても）に下記の症状がある場合は入館及び診察をお断りさせていただきます。（37.5℃以上の発熱、鼻水、咳、発疹、24時間以内の下痢、おう吐）
〇付き添いは、外来・入院面会ともに患者さん1名につき2名までです。
〇きょうだいを連れての来院は原則禁止です。

皆様には大変ご面倒をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いします。
詳しくは病院ホームページをご覧ください。

医療機関の皆様へ　受診のご案内

①患者ご家族からのご予約

紹介元医療機関 → 紹介状（診療科が明記されているもの）

患者さん予約の電話 →

予約センター
受付時間（9時～17時　土日祝除く）
一般外来
☎048-601-0489
保健発達部門
☎048-601-2165

患者さん来院 →

予約当日にお持ちいただくもの
①保険証
②医師の紹介状
③母子健康手帳
④医療券
（公費負担を受けている方）

②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ

紹介元医療機関

→ **緊急診療（当日診療）の場合** → 電話交換手へ緊急性があることをお伝えください（365日24時間対応可能）

→ 診療科が明確な場合はその**「診療科医師」**へおつなぎしますので、ご相談ください

→ 休日・夜間又は、診療科が不明確な場合は**「救急診療科医師」**へおつなぎしますのでご相談ください

→ ・当日の受診ではないが早期診療が必要な場合
・紹介状の診療科が不明確で相談したい場合 → 電話交換手へ相談内容をお伝えください
受付時間（9時～17時　土日祝除く）

→ **「地域連携室」**が対応します
まずは現在の症状が分かる診療情報提供書をFAXで送っていただき、調整の上ご連絡します
FAX番号 048-601-2237

小児医療センター　代表電話
☎048-601-2200

病院へのアクセス

■公共交通機関をご利用の方
- JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約５分
- JR埼京線「北与野駅」から徒歩約６分

※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方
- 駐車場は有料になります。
- 機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。

※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

小児医療センターだより第18号
令和２年11月発行
編集・発行　埼玉県立小児医療センター
地域連携・相談支援センター